

都立武蔵野北高等学校  MUSASHINOKITA
H A N D B A L L
女子ハンドボール部通信

No.16
(29年度2号)
平成29年6月24日 (土)
東京都武蔵野市
八幡町2-3-10
都立武蔵野北
高等学校
女子ハンドボール部

今後のスケジュール

- 7月 夏合宿 (22~26日・長野県白馬)
- 8月 国公立大会
- 9月 府中市民大会
- 10月 東京都高校秋季大会 (全国高校選

- 抜大会都予選)
- 11月 OG戦
- 12~1月 冬休み (練習試合等)
- 2月 府中市高校練習会
- 4月 関東大会都予選
- 5月 インターハイ都予選

「みんなで思いっきりがんばりました!!」
37期生が「有終の美
「あきらめない姿勢」貫いて戦いを終える



みんなで心をひとつにして駆け抜けた部活動。達成感いっぱいの笑顔です

続出したのです。絶望が伝わり、みんなで泣いたこともありましたが、しかし、みんなで立ち直り、一人ひとりが「なにくそ」と努力を再開しました。サポートにまわらざるを得なくなった者も、毎日いっしょに戦いました。それからの日々、あきらめたり、くさったりした者は1人もいません。最後まで自分のやるべきこと、そしてチームとしてやるべきことを追究しつづけました。

めてもいます。そしてなにより、みんなで達成感を得られたことの喜びが、最後の試合後のこぼれんばかりの笑顔に現れていました。2人でひとつのポジションを任せられ「2こイチ」を合言葉に、切磋琢磨しながら互いに互いを成長させてきました。コートの中、外、関係なく、自分の役割をまっとう、チームメイト同士、「あなたがいたからこそ」と言える関係、そして自己肯定。1人ひとりがアイデンティティを確立することができました。ごくろうさま、ありがとう。がんばったよ、37期生!!。そして、ご家庭のみなさん、クラスメイトのみなさん、他校の友人のみなさん、たくさんの応援ありがとうございました。

14人全員の力を結集して最後まで戦いぬきました!

5月21日、武蔵野北高校女子ハンドボール部は、インターハイ都予選の2回戦で惜敗し、37期生が、その戦いの幕を閉じました。

全員が高校進学後に初めてハンドボールに触れた14人。ボールをキャッチし、投げるところから始めた14人でした。1年前、卒業生から引き継いで、自分たち

で歩み始めたころ、みんなまだ自信のない顔でコートに立っていました。


「私たちだってやれる」と感じ始めたのは、新人戦のころからだったでしょうか。しかしそれから、この代は本当に苦しみました。それはケガ。


半年の間に、手術が必要になった者4人を含め、戦列を離れざるを得ない者が


今シーズンに入ってから試合では、コートに立てない者の思いを背負って、苦しい戦いをがんばりぬきました。シード校を残り2秒まで追いつめたり、最後の試合でも、タイムアップまで、あきらめることなく、しっかりとムサキタハンドボールを貫き通しました。


最後の大会となったインターハイ都予選の城西大城西戦では、みんなが次ぎつぎとコートに立ち、替わるがわる活躍してムサキタらしい試合展開で勝利をおさ

顧問の先生を紹介します

 塚本慎一郎先生
主顧問、国語科。幼い息子さんがいながらも部活にきてくださる。山本コーチと瓜二つと他部から評判。

 桂田和子先生
副顧問、化学。女ハン愛あふれるアドバイスで、私たちを成長させてくださる我がお母さん。

 毛塚みちる先生
副顧問、音楽科。吹奏楽部のリーダー顧問。学校一の素敵な笑顔と美声の持ち主。1日練習の守り神。

 長谷川秀雄先生
副顧問、英語科。古風な眼鏡がとってもお似合いで、優しく的確なアドバイス。みんなの癒しの先生。



新チームも順調にスタートを切っています

期待の新チームは、2年生15人、1年生16人で仲よくスタートしています。全員が高校でのハンドボール初心者ですが素質は満点。1年生は、パス、キャッ

チの基本からじっくりとスキルを育てています。2年生は練習試合もスタート、努力のあとが、そここに現れ、互いの成長を実感しているところです。